

## 竹内愛二教授記念号刊行によせて

竹内愛二先生は今年六月廿二日に古稀を迎えられ極めて御壮健であることを心からお慶び申上げたい。

先生は苦学力行の士と拝聴しているが、おそらくそれが先生の御人格の形成と学問に反映しているものと思う。先生の御著書「専門社会事業研究」はそのあらわれである。

関西学院大学社会学部は、大正4年高等学部文科に設置された社会学科を濫觴とするが、この学科の事実上の創設者たる小山東助教授は、ミッションスクールの使命として Social worker を作ることが必要であり社会事業学科をおかねばならないことを主張したが、竹内教授はこれを実現されたという関西学院には大きな貢献をされたのである。また社会福祉学専攻をおく大学院は数少ないが、先生はこれの実現にも多大の努力を払われたのであって、その貢献も忘るべからざるものである。

また、今年11月3日「文化の日」には、「わが国の社会福祉学、社会事業教育を開拓、兵庫県の社会事業指導者として活躍、世界ソーシャルワーカー連盟(LFSW)中央執行委員であり、世界的にも“タケウチ”の名は知られている」として、兵庫県文化賞を受けられた。社会学部の一同は、これを心からお慶び申上げると共に、学部のほこりとするところである。

関西学院の規定により、今年度末をもって先生をお送りしなければならないのであるが、どうか今後とも御壮健で研究と社会的活動をおつづけになることを祈ってやまないのである。

社会学部の一同は、日頃の研究の成果を集めて記念号を刊行し、先生に捧げる次第である。

昭和40年11月30日

関西学院大学社会学部長

余 田 博 通